

地域ぐるみで防災に取り組もう

地域防災活動の重要性

大規模な災害が発生した場合、行政機関だけで災害に対応することは、極めて困難な状況となります。災害による被害を最小限にとどめるには、自分たちの地域は自分たちで守るという気持ちで、地域の皆さんが「力」を合わせて行動することが重要です。



自主防災組織を作ろう、参加しよう、育てよう

地域の住民同士が話し合い、いざというときに組織力を発揮できるよう、平常時からみんなで協力し合いながら防災活動に取り組みましょう。



自主防災組織の平常時の主な活動

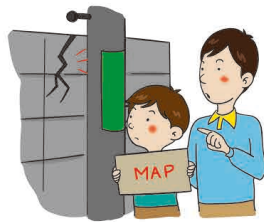
▼ 防災知識の普及

地域住民一人ひとりの防災への関心を高めることが大切です。お祭りや運動会、美化デーなどと併せて防災イベントを実施しましょう。地域の人が多く集まるイベントに防災訓練を組み込むことによって、防災知識の普及につながります。



▼ 防災点検を行う

地域内の危険箇所や、避難先までの安全経路を確認して、「地域オリジナルハザードマップ」を作成してみましょう。また、防災倉庫の備品の点検や各家庭の防災用品のチェックをしましょう。



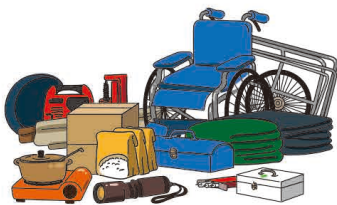
▼ 日ごろからのコミュニケーション

災害時の安否確認や、地域での支援活動をスムーズに行うために、日ごろから地域の方とのコミュニケーションをとりましょう。



▼ 防災資機材の整備

ヘルメット、消火器、担架、救急医療品、非常用食品、懐中電灯、ロープ、工具品など必要な資機材を準備しましょう。また、日ごろから点検を行い、使い方も確認しておきましょう。



▼ どんな防災訓練がある？

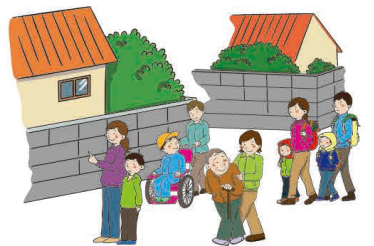
初期消火訓練 → 地域運動会で水バケツリレー。
炊き出し訓練 → 地域イベント内で炊き出し訓練を行い、みんなで試食。
避難誘導訓練 → ウォーキング大会コースで災害時に危険箇所となりそうな場所の確認。

...その他にも、応急救護訓練や情報収集伝達訓練など防災訓練には種類が多くあります。地域のイベントや鹿沼市の防災訓練に併せて実施しましょう。

自主防災組織の災害時の主な活動

▼ ご近所の安否確認

自主防災組織で決めた「集合場所」などでご近所同士の安否確認をしましょう。



▼ 近所、地域での助け合い

負傷者や倒壊家屋の下敷きになった人たちの救出・救助活動や、火災が発生している場合、初期消火活動を行いましょう。ただし、救出活動や消火活動は危険を伴う場合があるため、決して無理はせず、二次災害に十分注意しましょう。



▼ 情報収集、伝達

災害に関する正しい情報を地域に伝達しましょう。また、地域の被害状況などを取りまとめましょう。



▼ 避難誘導、避難所運営

安全な場所への誘導や、災害時要配慮者の安否確認、避難所の開設や運営、衛生管理を行っていきましょう。

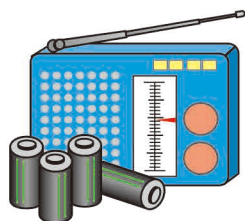


非常時持出品・備蓄品

非常時持出品(例)

いざというときすぐに持ち出せるように、日ごろから準備・点検しておきましょう。

携帯ラジオ



- ラジオ
- 電池(多めに用意)

救急医療品



- 救急セット
- 常備薬(持病の薬など)

感染症対策

- マスク
- 手指の消毒液
- 体温計

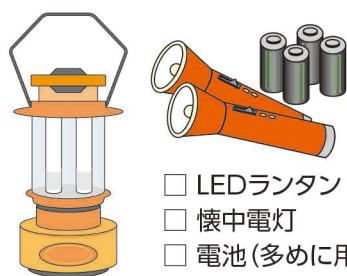
非常用食品



火を通さなくて食べられるもの

- 飲料水
- 乾パン
- 缶詰
- アルファ米
- 飴・チョコ

ライト類



- LEDランタン
- 懐中電灯
- 電池(多めに用意)

その他

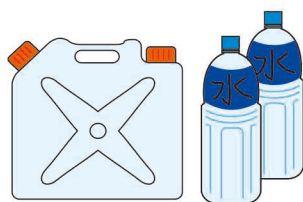


- 現金(小銭多めに)
 - ホイッスル(助けを呼ぶため)
 - 着替え
 - ウェットティッシュ
 - 歯みがきセット
 - スマートフォン・携帯電話の充電器
 - モバイルバッテリー
 - タオル
 - ラップフィルム(止血や食器にかぶせて使う)
 - 割りばし
 - 紙皿・紙コップ
 - 新聞紙
 - ビニール袋
 - 耳栓・アイマスク
- 各家庭で必要なもの
- 赤ちゃん用品(ミルク・離乳食・おむつなど)
 - 入れ歯・補聴器
 - 生理用品
 - リュックサック
 - コンタクトレンズ・めがね

非常時備蓄品(例)

災害復旧までの数日間(最低限3日、推奨7日)を生活できるようにしましょう。

飲料水



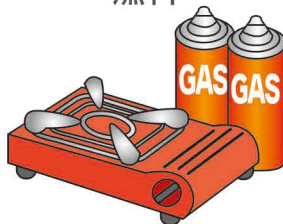
- 飲料水(1人1日3リットルを目安に)
- 貯水したタンク

非常用食品



- お米(アルファ米も便利)
- 缶詰・レトルト食品
- 梅干し・調味料
- ドライフーズ・飴・チョコ(菓子類など)

燃料



- 卓上コンロ
- ガスボンベ
- 固形燃料

その他



- 生活用水(風呂などに貯水)
- 毛布・寝袋・洗面用具
- 調理器具(なべ・やかんなど)
- バケツ・各種アウトドア用品
- 歯みがきセット・ひげそり

避難するときにはこんな格好で

ヘルメット(防災ずきん)をかぶる

軍手や手袋をはめる

長そで・長ズボン着用
燃えにくい木綿製品がよい



非常時持出品はリュックサックに入れて背負う

靴は底の厚い、はき慣れたものをはく

帰宅困難に備えよう

大地震が発生した場合、交通機関の途絶によって自宅に戻れない「帰宅困難者」になる可能性があります。勤務先や学校から徒歩で帰宅することを想定し、日ごろから準備しておきましょう。

防災グッズを用意する

携帯ラジオ、ヘルメット(防災ずきん)、スニーカー、非常用食品、歯みがきセット、懐中電灯、革手袋、地図、寒暖対策用品など。

帰宅地図を用意する

災害の状況によっては、道路が通行不能になる場合があるので、複数の帰宅ルートを決めておくといでしょう。

家族との連絡方法を決めておく

地震が発生すると、家族や親戚とは簡単に連絡をとることができません。事前に以下のような項目に関して、家族全員で確認しておくことが重要です。

- 災害時の安否確認の方法
- 家族の集合場所
- 徒歩帰宅する場合のルート

